

# 【 九 重 町 】

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語A

- 教科の正答率で見ると、国語「A：主として知識」が全国と比較して、+1.2ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「話すこと・聞くこと」で-6.9ポイント、「書くこと」で-4.0ポイント、「読むこと」では-0.3ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、+1.1ポイントとなった。
- \*全国と比較して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある。

#### 小学校：国語B

- 教科の正答率で見ると、国語「B：主として活用」は-0.5ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「話すこと・聞くこと」で+1.2ポイント、「書くこと」で±0、「読むこと」で±0となった。
- \*全国と比較して、ほぼ全国と同じレベルである。

### 2 具体的な学習指導に当たって

#### 小学校：国語A

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 実用的な文書としての手紙を書く。
  - 基本的な構成に基づいて、手紙を書く。
  - 情景や作者の思いを想像したり、想像したことを交流したりする。

#### 小学校：国語B

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 説得力をもって自分の考えを伝えるため、引用して書く。
  - 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
  - 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

## 1 調査結果の分析

### 小学校：算数A

- 教科の正答率で見ると、算数「A：主として知識」が全国と比較して、+0.4ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「数と計算」で+1.1ポイント、「量と測定」で+1.1ポイント、「図形」で±0、「数量関係」で+0.7ポイントとなった。
- \*全国と比較して、すべての領域で全国を上回った。

### 小学校：算数B

- 教科の正答率で見ると、算数「B：主として活用」は+1.1ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「数と計算」で-1.0ポイント、「量と測定」で、-1.9ポイント、「図形」で、+4.8ポイント、「数量関係」で+1.2ポイントとなった。
- \*全国と比較して、「数と計算」「量と測定」で課題がある。

## 2 具体的な学習指導に当たって

### 小学校：算数A

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 問題場面における二つの数量の関係を理解できるようにする。
  - 計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする。
  - 整数の除法の結果は分数で表すことができることを理解できるようにする。

### 小学校：算数B

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 自らが数量の関係を見だし、見いだした数量の関係が、ほかの場合でも成り立つかどうか確かめることができるようにする。
  - 数量の関係が成り立つ理由と図を結び付けて考えることができるようにする。
  - 数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現することができるようにする。
  - 測定値の平均を工夫して求める良さを実感できるようにする。
  - 身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現することができるようにする。

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 調査結果の分析

### 中学校：国語A

- 教科の正答率で見ると、国語「A：主として知識」が全国と比較して、+4.6ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「話すこと・聞くこと」で+3.9ポイント、「書くこと」で+6.8ポイント、「読むこと」では+1.9ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、+4.8ポイントとなった。
- \*全国と比較して、すべての領域で全国を上回っている。

### 中学校：国語B

- 教科の正答率で見ると、国語「B：主として活用」は+1.8ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「話すこと・聞くこと」で+1.4ポイント、「書くこと」で-0.8ポイント、「読むこと」で+7.2ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、+18.2ポイントとなった。
- \*全国と比較して、書くことに課題がある。

## 2 具体的な学習指導に当たって

### 中学校：国語A

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 場面の展開に着目して、内容を理解しながら読む。
  - 目的を明確にし、人との交流を通して材料を集める。
  - 場面に即した語句・語彙指導の工夫。
  - 多様な語句・語彙指導の工夫。

### 中学校：国語B

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 場面の展開や登場人物の描写に着目して読む。
  - 交流を通して振り返り、より分かりやすい内容や表現の仕方について考える。
  - 目的に応じて必要な資料を選び、適切に情報を読み取る。
  - 情報の提示の仕方その効果について考え、見通しをもって必要な情報を集める。

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

## 1 調査結果の分析

### 中学校：数学A

- 教科の正答率で見ると、国語「A：主として知識」が全国と比較して、+1.4ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「数と式」で+5.7ポイント、「図形」で-0.9ポイント、「関数」では-2.4ポイント、「資料の活用」では、+2.0ポイントとなった。
- \*全国と比較して、「図形」「関数」に課題がある。

### 中学校：数学B

- 教科の正答率で見ると、国語「B：主として活用」は-1.1ポイントとなった。
- 学習指導要領の領域については、「数と式」で-0.1ポイント、「図形」で-1.9ポイント、「関数」で-2.0ポイント、「資料の活用」では、+6.1ポイントとなった。
- \*全国と比較して、「数と式」「図形」に課題がある。

## 2 具体的な学習指導に当たって

### 中学校：数学A

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 二元一次方程式の解の意味を理解できるようにする。
  - 見通しをもって作図したり、作図の方法を見直したりすることができるようにする。
  - 扇形の弧の長さや面積が中心角の大きさに比例することを用いて、それらを求めることができるようにする。
  - 多角形の内角の和の求め方を理解できるようにする。
  - 平行四辺形になるための条件を具体的な場面で用いることができるようにする。
  - 様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにする。
  - 二元一次方程式とグラフの特徴について、それらを関連付けて理解できるようにする。
  - 相対度数の必要性和意味を理解できるようにする。

### 中学校：数学B

- 正答率が全国より低かった問題については、授業において次のような点を指導する必要がある。
- 数量の関係や法則などを事象に即して解釈し、数学的に表現することができるようにする。
  - 事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにする。
  - 数学的な結果を事象に即して解釈できるようにする。
  - 事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、証明することができるようにする。

## 平成29年度 九重町における取組の重点

### 1 低学力層の児童・生徒への支援の実施

- 長期休業中・放課後の補充学習の実施
- 個別の指導計画、学習状況個人カルテの作成と活用

### 2 児童生徒の活用力の向上のための取組

- 学校図書館を活用した授業実践
- B問題を意識した授業（協調学習を含む）の実施
- 朝読書の取組の充実

### 3 授業改善の取組

- 新大分スタンダードの徹底
  - ・校内において計画的な提案授業・授業公開の実施
  - ・観察シートを用いた互見授業の実施
- 大分県学力定着状況調査の誤答分析とそれに基づいた授業改善の推進

# 【 九 重 町 】

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

- 小学校においては、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。
- ・自分には、よいところがある。
  - ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意。
  - ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
  - ・5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
  - ・国語の勉強は好きである。 ・国語の勉強は大切だと思う。 ・読書は好き。
  - ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
  - ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
  - ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
  - ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 小学校においては、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。
- ・算数の勉強は好き。
  - ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

#### 生徒質問紙

- 中学校においては次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
  - ・1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
  - ・1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
  - ・1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
  - ・1, 2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。
  - ・1, 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
  - ・読書は好き。
  - ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
  - ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
  - ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- 中学校においては次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。
- ・自分には、よいところがあると思う。
  - ・将来の夢や目標を持っている。
  - ・数学の勉強は好き。
  - ・数学の授業の内容はよく分かる。

## 児童生徒質問紙からの調査結果を踏まえて

### <成果>

- 1時間完結型の授業改善が、すべての学校で実施され、児童生徒もそのことが意識されている。
  - 「総合的な学習の時間」を始めとした課題解決学習が進められている。
  - 読書活動が推進されているため、読書好きの割合が高い。
  - 授業の中でグループやペアでの話し合い活動が仕組まれている。
- 以上のことから、学校全体で組織的な授業改善が推進されている。
- また、「学校に行くのは楽しい」や「国語・算数は大切である」、「達成感を感じる」などで改善傾向が見られることから、日常の教育活動が充実していると判断できる。

### <課題>

- アンケート結果より算数・数学について肯定的な回答が低い。
  - 町全体としては、授業改善が進んでいるが学校によって差がある。
- 以上のことから、小中学校ともに算数・数学の組織的な授業改善と学校間の取組の交流を計画的に推進していく必要がある。

# 【 九 重 町 】

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小中学校：学校質問紙

##### ○肯定的な回答

- ・児童生徒の礼儀、授業に対する取組。
- ・学級やグループを活かした話し合い活動の充実。
- ・個別の児童生徒に対する補充学習の実施。
- ・めあて、ねらい、振り返りなどの設定。
- ・PTA活動や外部講師の活用。
- ・全国学力学習調査等の教育活動への活用。
- ・家庭学習の充実に向けた取組。
- ・校長のリーダーシップのもと、組織的・継続的な研修の充実。

##### ○一部課題が見られる回答

- ・教科の全体計画、指導計画作成におけるカリキュラム・マネジメントの視点。
- ・教科の全体計画、指導計画など教育課程における小中の連携。
- ・グループ活動における適切な課題の設定。
- ・授業におけるICT機器の活用。
- ・特別支援教育の視点を活かした指導方法の工夫。

### 2 九重町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 1 新大分スタンダードをベースにしたさらなる授業改善
- 2 ペアやグループによる「協働的な学習・協調学習」の一層の推進
- 3 学力向上支援教員等を活用した授業力の向上
- 4 ここのえ学園基本計画に基づいた小中連携・地域保護者との連携の推進